



SPECIAL
INTERVIEW



More Relevant Than Ever

写真: Shutterstock/アフロ

『ペンタゴン・ペーパーズ』で米社会に警鐘

スティーブン・スピルバーグ

「政府が真実をゆがめてはならない」

メリル・ストリープとトム・ハンクスとの2大オスカー俳優が初共演を果たした、
巨匠スティーブン・スピルバーグ監督の最新作『ペンタゴン・ペーパーズ／最高機密文書』。
1971年、泥沼化するベトナム戦争に関する「政府の不都合な真実」が記された機密文書を入手した記者たちが、
いかにして政府からの圧力に屈せず、報道の自由を守り抜いたかが描かれている。
スピルバーグ監督が作品に込めた思いや作品の見どころなどについて語った。

■ スティーブン・スピルバーグ

米国の映画監督、映画プロデューサー。アメリカ映画アカデミー会員。幼い頃から8ミリカメラで自主的に映画を制作し、大学で映画を専攻。'72年に、テレビ映画として撮った『激突!』が評判を呼び、海外では劇場公開され世界にその名前が知られるようになる。'75年公開の『ジョーズ』が大ヒットとなり一流監督の仲間入りを果たす。他の代表作に『未知との遭遇』『E.T.』『インディ・ジョーンズ』シリーズなど多数。1946年、オハイオ州生まれ。



79 「今、撮るべき作品」

Interviewer Do you ever surprise yourself when you see your finished product and find that it's even more powerfully emotional than you imagined?

Steven Spielberg Rarely. Rarely. I get so, sort of, in the center of the experience, you know, it's very hard to step out into the audience and look at it on the screen the way an audience for the first time would see it on the screen. But I...I can o... certainly tell when I'm getting the truth from the performances—you know, “the truth” meaning that it just seems like I'm not even in the room and we're not even making a movie and these are real-life characters, you know, living lives. And that kind of came close for me on *The Post*, watching Tom and Meryl.

Interviewer Why were you in such a hurry to make it?

relevant:
《タイトル》今日的な意義のある
finished product:
完成品
emotional:
感情に訴える、感動的な

rarely:
めったに～ない
step out into:
～の中に出て行く、踏み出す
audience:
観客
the truth:
真実、追真性
performance:
演技
real-life:
現実の、実在の
The Post:
『ペンタゴン・ペーパーズ／最高機密文書』
Tom (Hanks):
トム・ハンクス ▶米国の俳優。『フィラデルフィア』（1993年）、『フォレスト・ガンプ／一期一会』（'94年）でアカデミー賞主演男優賞を2年連続で受賞。1956年カリフォルニア州生まれ。
Meryl (Streep):
メリル・ストリープ ▶米国の女優。『クレイマー・クレイマー』（'79年）でアカデミー賞助演女優賞を、『ソフィーの選択』（'82年）、『マーガレット・サッチャー 鉄の女の涙』（2011年）でアカデミー賞主演女優賞を受賞。1949年ニュージャージー州生まれ。

be in a hurry to do:
大急ぎで～しようとしている、慌てて～しようとしている

インタビュアー 完成した作品を見て、想像以上に強く感情に訴えるものに仕上がったのがわかって、われながら驚いたということがありますか。

スティーブン・スピルバーグ めったにないですね。めったにありません。自分では、その、制作作業にあまりにも入り込んでしまいますからね、そこから踏み出して観客の1人になって、観客が初めて見るように作品をスクリーンで見るとは非常に難しいんです。ただ、間違いなくわかるのは、演技から真実味を引き出しているとき——ええと、「真実味」というのは、自分はスタジオにいてもないし映画を作っているのもない、これは実在の人物、ほら、現実に生きている人間だ、そんなふうに見えるという意味です。そういう類いの追真性を『ペンタゴン・ペーパーズ／最高機密文書』の制作では感じました、トムとメリルを見ていて。

インタビュアー どうしてあんなに大急ぎで撮ったのでしょうか。